

# 「空中給油機 KC-130」の訓練移転の動向

## 住民説明会を実施しました

7月11日から14日までの4日間、大始良地区学習センター、野里集落センター、田崎地区学習センター、中央公民館、西原地区学習センターの5会場で、空中給油機KC-130についての住民説明会を実施。4日間で296人の参加がありました。

住民説明会で出された主なご意見と、これに対する九州防衛局の回答をご紹介します。

問 市政政策推進課（3階）  
☎31-1125

### ◎訓練について

Q 現在示されている「離発着訓練」「地上給油訓練」「荷下訓練」が将来的に拡大され、鹿屋基地が米軍基地化すること、絶対無利と言えないのか。

Q 騒音の程度は、資料の数字だけでは分からない。実際にKC-130等が飛んできて音を体感することはできないか。

Q 米軍機の夜間訓練は、午後10時までの説明であるが、米国に対して、夜の訓練は9時までに終了し、早朝の訓練は行わないことを強く申し入れることはできるのか。

Q 騒音問題は最も懸念される。米軍の訓練が鹿屋で行われることで、これまで以上に騒音がひどくなるのではないかと。生活環境の面で負担を掛けていることは認識している。ただ、米軍の訓練の必要性を認識していただき、なんとかご理解いただきたい。

Q 米軍の訓練により、鹿屋基地の訓練時間が圧迫され、早朝や夜間に自衛隊の訓練がされるようになるのではないかと。

Q 鹿屋基地においては、P-3Cの騒音もだが、回転翼（ヘリコプター）による騒音もある。騒音で大変ご負担を掛けていることは承知している。

### ◎騒音について

Q 鹿屋基地周辺には、**第一種区域**の告示後に建築された住宅への防音工事を実施することはできないか。

Q 鹿屋基地で訓練予定の米軍は、基本的に日帰りというところであるが、米兵が鹿屋市街地を出歩くことはないのか。

Q 防衛省による第一種区域の基準75Wを、環境省基準の70Wに引き下げることはできないか。

Q 沖繩の基地負担軽減について理解しているが、米軍の訓練実施により、鹿屋にとって何かメリットはあるのか。

Q 防音工事で設置し10年以上経過した機器で不備（故障）がある空調設備（冷暖房機、換気扇等）の更新、防音サッシの復旧等、速やかに対応して欲しい。

Q 住宅移転後の土地の買い上げや移転に伴い植林された平地（緑地帯）を整備して欲しい。

### ◎安全対策について

Q 空中給油機KC-130、オスプレイは事故が無いと言っているのか。

Q 今回説明のあった訓練は、未だ永劫続くのか。

### ◎その他

※**第一種区域**に住宅防音工事対象区域  
※住民説明会の内容については、市ホームページにも掲載しています。

Q KC-130やオスプレイ、CH-53の回転翼機の飛行ルートはどうなるのか。

Q 基本的な経路は、鹿屋基地の管制に従う。

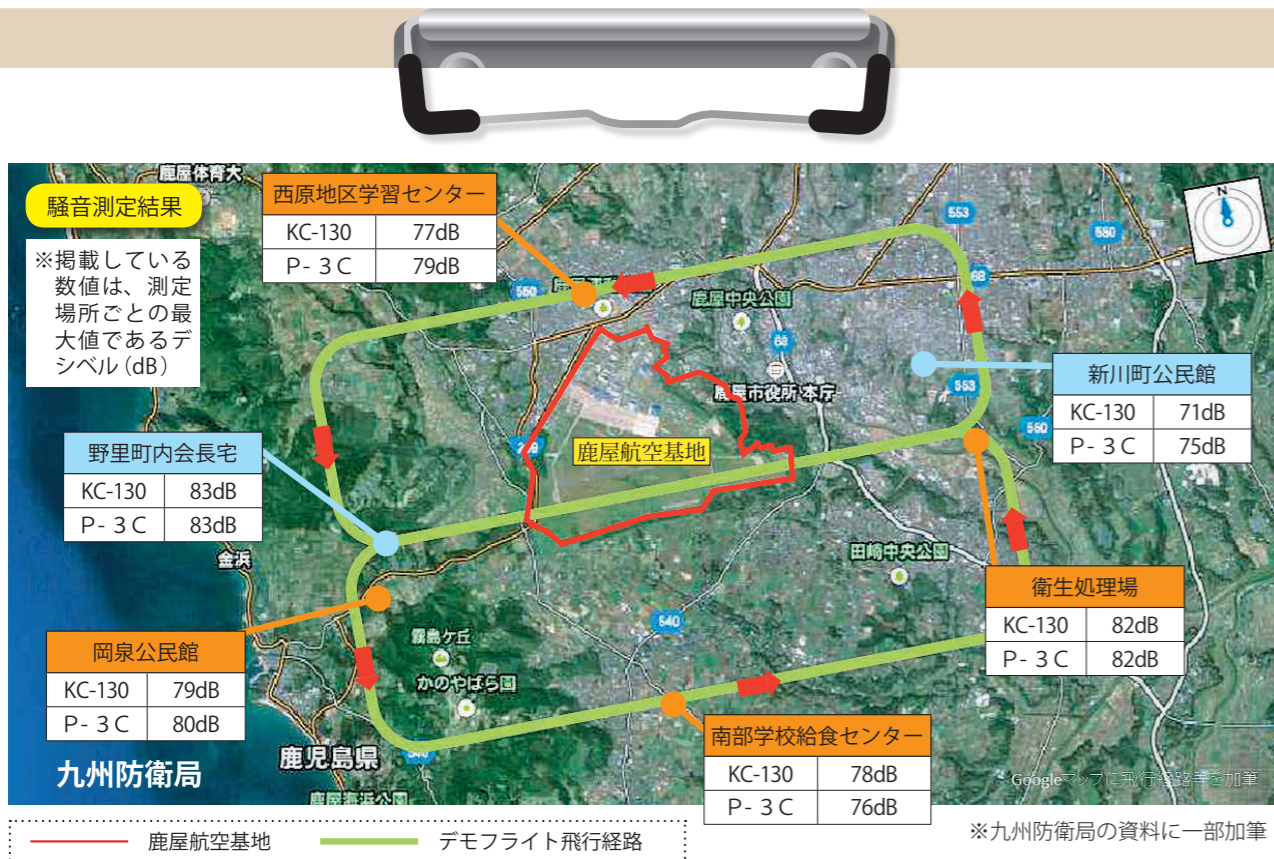
Q 鹿屋基地で訓練予定の米軍は、基本的に日帰りというところであるが、米兵が鹿屋市街地を出歩くことはないのか。

Q 天候不良等で戻れない場合、鹿屋基地内の宿舎に泊まることになる。場合によっては買い物に外出することもある。

Q 理解をいただければ、再編交付金を交付することになる。

Q 米軍が日本で、鹿屋で訓練をする理由は何なのか。

Q 普天間から岩国にKC-130を移駐させたが、これは沖繩の負担軽減の一環である。そして、ローテーション展開で鹿屋とグアムに訓練の一部を持って行く。市街地の中にある鹿屋基地のため、騒音の面で負担を掛けることになるが、訓練の必要性を認識していただきたい。



## デモフライトの実施結果

8月24日、米軍の空中給油機KC-130と海上自衛隊のP-3Cのデモフライトが実施され、多くの皆さんが鹿屋航空基地周辺に実物を見ようと訪れました。

これは、市議会への説明、住民説明会での要望等を踏まえ、飛行の状況などをご自宅等で確認いただくために実施されたものです。

当日は九州防衛局が西原地区学習センター、岡泉公民館、南部学校給食センター、衛生処理場の市内4か所で騒音測定を行い、その結果、KC-130とP-3Cの騒音は同程度の数値でした。（上図）

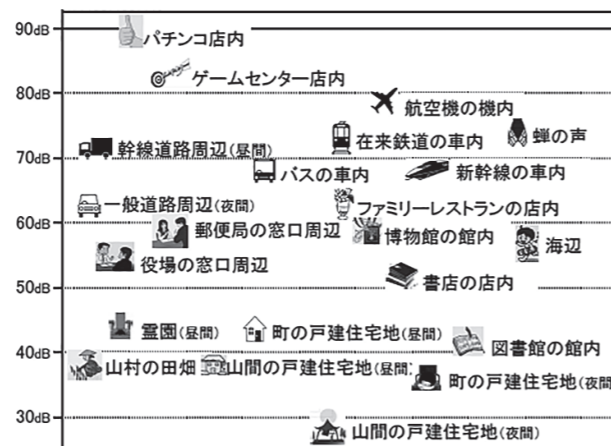
また、市が常設している観測地点の新川町公民館、野里町内会長宅の2か所でも、同様の結果でした。



空中給油機KC-130のデモフライトを見る人々（野里町）

※上野町公民館及び新生市営住宅集会所の2か所に九州防衛局が常設している自動騒音測定装置は、70dB以上の騒音が5秒以上継続するとデータが記録されるという設定条件を下回ったため、騒音データは記録されませんでした。

### 騒音の目安（地方都市・山村部用）



環境省ホームページより  
(出典「全国環境研協議会 騒音小委員会」)